

令和7年度 第1回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和7年5月28日（水）午後2時30分～午後4時00分

開催場所：岡崎城公園 巽閣

出席委員：6名

瀬口哲夫委員・杉野丞委員・中井均委員・丸山宏委員・奥田敏春委員・荒井信貴委員

欠席委員：三浦正幸委員

説明のために出席した事務局職員：9名

教育委員会：浅岡克徳部長

社会教育課：柴田英代課長・浦上大助副課長

遠藤研吾岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事・二村優里奈事務員

都市基盤部：本多徳行専門監

公園緑地課：津呂幸治計画整備係係長

傍聴者：なし

次第

委員長及び副委員長の選任

議題

- （1）令和6年度事業報告について
- （2）令和7年度事業計画について
- （3）坂谷門の整備について
- （4）岡崎城跡（岡崎城公園）植栽管理計画サクラ管理計画編（案）について

委員長及び副委員長の選任

委員の互選により、瀬口哲夫委員が委員長に選任された。また、委員長の推薦によって杉野丞委員が副委員長に選任された。

議事内容

- （1）令和6年度事業報告について

事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

委員：写真12のマツはアカマツか、クロマツか。

事務局：クロマツである。

委員：「龍城堀は本丸堀ともよばれ」とあるが、いつから本丸堀と言われたのか。何かの文献に載っているのか。

事務局：旧市史に載っている。

委員：それは何かに基づいて書かれているのか。

委員：江戸時代の曲輪帳に出てくる。ただ、本丸堀という言い方はかなり広範囲にわたるので、特定するためには龍城堀でいいと思う。

委員：刻印のある石は同じ所から出たのか。

事務局：今回の調査で、同じ場所から見つかった。

委員：同じ所から見つかるというのは何を意味するのか。

事務局：刻印自体は、石が切り出された場所や石工集団を示すものではないと考えている。

委員：同じ場所を積む場合に、いろんな石を持ってきて積んだという解釈か。

事務局：それも考えられる。もしくは転用石の可能性もある。

委員：石をどのように調達したか、どのように積んだか推察できるとよい。6種類もまとまって出てきたのはなぜか。積み直しをしたら複数の刻印が出てくる可能性はあると思うが、積み直しをしていなかった場合の理由が知りたい。他の城郭の事例があるとよい。

（2）令和7年度事業計画について

事務局：配布資料2に基づき説明

【質疑応答】

委員：サイン計画について検討してもらいたい。特に、展望デッキに設置する看板について検討してほしい。また、石垣にネットを張っているが、落石防止のために行っていることを何らかの形で来園者に示しておいた方がいい。近づかないで、だけでなく理由があって設置しているという丁寧な説明が欲しい。

委員：龍城堀の整備について、整備箇所1は面積も広いが、ベンチなどの設置も考えているのか。また、説明板をどのようにするのかも図面に記載してほしい。一方、整備箇所2は堀と石垣が見えるというだけで、空間として何かが置かれるということはないのか。

事務局：整備箇所1はベンチの設置を考えている。整備箇所2には何も設置しない。説明板については承知した。

委員：ツツジの高さを1/3くらい低くしたほうがよい。堀の周りの植栽の景観について考えるべき。現地を見たら向いの石垣の雑草がすごかった。せっかく見せるならメンテナンスも必要。あの石垣の除草は誰がやるのか。

事務局: 石垣に対して専門的な知識を持った業者が行っている。

委員: 展望デッキからどのような景観が見えるかのパース図は作っていないのか。景観を大事にしていく意思があるなら、先々の計画では、便益施設含めどのような景観になるかきちんと想定していくべきだと思う。

委員: 石垣測量業務について、岡崎城だよりと説明資料の実施済み面数が違う。

事務局: 確認する。

(3) 坂谷門の整備について

事務局: 配布資料3に基づき説明

【質疑応答】

委員: 盛土をしてレプリカを置くのか。

事務局: 盛土はしない。盛土をすると河川の流れを阻害するので認められなかった。逆に、表面の土を削って薄い石をレプリカとして置く想定である。

事務局: 現状、遺構面から1m盛土している。

委員: 盛土の上に置くとなると、坂谷門自体の両袖の石垣は今あるものから1m低く見えてしまう。そのあたりをどう考えるか。

事務局: 1m分盛り上げる差はでてきてしまう。文章だけで説明するのは難しいと思うので、今後はARなどを使って当時の様子を体感できる仕組みも検討したい。

委員: 資料の事例は盛土をして、厚さのある石を載せているが、両側が何もないのであまり高さの違和感はない。しかし坂谷門は両側の石垣を入れていくので、石垣が1m低く見えるというのは影響が出るのではないかと思う。できるだけ遺構が傷つかないギリギリのところまで掘削し、復元というより平らな石でいいように思う。

事務局: 先ほどの1mというのは外門の高さで、内門の場合は掘削深50～60cmで遺構面の高さになる。レプリカの天端面でいうと礎石の表面が現況の地盤高と同じになるように、全体は少しだけ掘り下げるので数十cm分のギャップの解消はできるかと思う。

委員: もう少し詳細な図面が欲しい。高さについては、立面図などが出てこないで検討ができない。本来の坂谷門の石垣が、今ある石垣より安っぽくなっては困る。

委員: そのまま見せることは可能なのか。

委員: それは遺構自体を傷つけてしまう。露出の展示で言ったら案2の可能性はある。

委員: 名古屋城でもそれを検討すべきと言う意見があった。可能性としてあるのかないのか。

- 委員：露出で展示するなら覆屋。一乗谷の遺構は博物館のなかで温度調整して行っている。
- 委員：よく議論になるのは、本質的価値は何かということ。それを整理してもらいたい。高さなのか、桁形の大きさなのか。それら本質的価値と言われているものを、整備パターンによってどれくらい阻害するのか検討されてしかるべきだが、ほとんど議論されないまま終わっている。本質的価値を書き出して比較して、「ここは価値の判断から言っておかしい」という部分は検討したほうがいい。
- 委員：案2について、ガラスの上を歩かせるのか。もしそうなら劣化や傷はつかないのか。屋外で、早く劣化が進む心配はないか。
- 事務局：この場所は大雨が降ると完全に水に浸かる。ガラス床の設置によって河川の流れを阻害するおそれがあるので、ガラスの性能等詳細な検討はしていない。
- 委員：資料に載っているのは一乗谷だと思う。一乗谷がガラス床での展示を始めた理由としては、横にある黒っぽい礎石の建物が劣化し始めたから。全部覆ってみて、傷がつくか様子を見ている。この坂谷門では河川の水没の可能性があると言っていたが、結局案2は案に入るのか入らないのか。
- 事務局：検討した、というだけで案には入らない。昨年度の委員会で「案を色々検討してみてほしい」と言われていたので案を考えたが、様々な事情で難しいという理由を報告している。
- 委員：それは誰が言っているのか。県の河川課か。愛知県がOKならいいのではないか。
- 事務局：治水の面も考えてこの案になった。
- 委員：露出展示が劣化するというが、石垣の石も劣化するのではないか。
- 委員：土の中に埋もれていた地下遺構である礎石と、石垣のようにずっとさらされている地上遺構とでは判断の基準が違う。
- 委員：地下遺構は問題があるが、地上遺構は問題がない。坂谷門はどちらか。
- 事務局：地下遺構になる。
- 委員：地下遺構と地上遺構が組み合わさっている。露出している石垣と、発掘で出てきた部分をどうバランスよく整備するかが検討課題である。
- 委員：その工夫をすれば、今より理解が進む展示ができるのではないか。
- 委員：発掘で見つかったものをそのまま展示するのではなく、縮小版など横側に展示エリアを設けて表現するのはどうか。発掘調査の成果を顕在化させるには、その上にやる必要はなくて、広場などで表現できることもあると思う。QRコードを読み込んで見せることもできるので、いきなり「これ」ではなくもう少し時間をかけて考えるべき。

(4) 岡崎城跡（岡崎城公園）植栽管理計画サクラ管理計画編（案）について

事務局：配布資料4、4－1に基づき説明

【質疑応答】

委員：サクラを植樹する場所は土壌改良をするのか。咲いた後、何の管理もされていないように見受けられる。植樹もそうだが、現在のサクラをどのように管理するのか計画はあるのか。また、育てる側の人材はどうなのか。植える場所も、上を見てもらって、空が見えていたらいいが、他の樹木の枝があったら植えても枯れる。そのような情報がここでは読み取れない。遺構のこともあるので植えられる場所があるのか事前に調査してほしい。防根シートも、計画上やっているが、防根シートを破っていくと思う。1.25 mならギリギリ行けると思うが、1本1本のサクラのカルテを作成し、植えた後どうなっているか管理が必要である。樹種について、エドヒガンはいいと思う。また、先ほど回ったときに思ったが、龍城堀の横でサクラを植えるために大木を切るのはどうかと思う。植える場所がないから今ある木をどんどん切っていくという考え方は違う。石垣を毀損しているものをまず切っていく、そのエリアごとにどのような計画を立てるか具体的にすべき。また、サクラのためのトレンチの配置はあるが他の樹木はない。他の樹木とサクラをどう景観的に作っていくか。大きな木を切ってまでサクラを植えるのは矛盾していると思う。そのあたりがこの計画の中でどう生かされるのか。植えるに値する場所なのか。平面ではなく実地になったときに可能なのか検討してもらいたい。サクラを見せるためにどのようなやり方があるかが非常に大切である。

委員：クラウドファンディングの原資の使い方について、この植栽管理をより精度の高いものにして、他の都道府県や市町村から「岡崎方式」と呼ばれるくらい時間とお金をかけた方がいい。現状、1本1本に目をかけるという内容でないのが残念。樹齢は分からないし、場所によって土壌環境も違う。石垣に影響があるというが、この判断はセカンドオピニオンを入れていないと思う。一つの業者なら、一つの基準で伐採の対象だと判断するので、決めた過程が分からない。この計画を次のステップに上げるためには、個々の本数に関する詳細なデータを積み上げていって、そのデータを基にして切るべきかどうか判断していくべき。先ほど現地で、サクラの植え替えの話があった。5本ほど対象になっていたが、あれは樹齢どれくらいか

委員：60年から70年くらいだと思う。

委員：試掘でこんなに史跡を傷つけていいのか。もし試掘して遺構が出てきたら、そこはサクラを植えないということでもいいのか。

事務局：計画のなかでは遺構を傷つけてない前提であるのでその場合はそこで止め

る。もし盛土ができるのなら盛土して植える。盛土が難しければ植えられない。

委員：今は植樹する場所の図面しかないが、過去にここの状況がどうであったかの図を合わせてみてもらうとあたりがつくのではないか。

委員：何が遺構かしっかりおさえないといけない。ピット1個でも遺構という認識なら、ピット1個でも出てきたら植えられないという認識を持っておかないといけない。絵図と比較しながら想定をするべき。これは単純に試掘場所を決めているが機械的すぎる。遺構がありそうな場所は初めから避けるべき。トレンチ自体も検討したほうがよい。